



院内広報誌

WINTER

か・け・は・と

こころの虹

OIKAWA HOSPITAL INFORMATION KOKORO no KAKEHASHI

♥ホームページ URL <http://www.oikawahp.net>♥Eメール address info@oikawahp.net

編集・発行

医療法人 にゅうわ会

及川病院

〒810-0014

福岡市中央区平尾2丁目21-16

TEL 092-522-5411

基本理念

及川病院のめざすこと、その役割と大切なこと

親切

私たちは親切な対応とわかりやすい説明を心がけ、患者様の身になって行動しています。

信頼

私たちは患者様の一日も早い回復、社会復帰を願い、信頼され心の通い合う医療に努めています。

専門

私たちは、乳癌医療及び緩和医療を担う専門病院として、専門的な知識や技術を集結したチーム医療を実践します。

進歩

私たちは常に新しい医療とそれを取り巻く環境を学び、より優れた医療の提供を目指し進歩し続けます。

あけましておめでとうございます。平成22年が始まりました。

及川病院はこの地で診療を始めてから3月でまる40年が過ぎ、新しく41年目がスタートします。年の初めに気持ちを新たにすると同時に、今年は当院の新しい歩になるよう精進していきたいと思います。

昨年は政権交代が起こり、医療制度も与党の公約通りなら変わってゆくでしょう。病院もそういう制度の上に成り立っていますので無視はできません。しかしどのように制度が変わっていても、患者さまが抱えられる悩みや疾病はそのままの形で続いていきます。私たちは立ち止まるわけにはいきません。変わっていくとしたら、私たちがさらに豊富な知識と技術を身に付け、常に高度で優しい医療の提供を目指してゆくことだと考えます。

昨年は乳がん看護認定医看護師を誕生させました。今後も緩和ケアや化学療法など当院の診療の根幹となる分野でのスペシャリストの育成に力を注いでいく所存です。また診療は医師と看護師だけで行えるものでもありません。多職種の力をひとつにして初めて患者さまへの医療の提供ができるものです。そのことを念頭に今年も努力してまいります。

今年一年が皆様にとって幸せ多き年でありますように。



インフルエンザと非ステロイド抗炎症系解熱剤について

～及川病院 薬局より～

ヒポクラテスの時代から解熱剤が利用されるようになった19世紀半ばまでの約2000年間、感染した時に熱が出るのは体にとって有益な兆候とみられていました。発熱は感染したウイルスの排除に重要な役割を持っています。

インフルエンザにかかったら、鼻やのどの粘膜で増殖するウイルスに対し、人の身体は発熱とともに免疫作用、抗ウイルス作用のあるインターフェロンなどのサイトカインを出してやっつけます。

つまり、熱がピークに達した頃は、身体のウイルスは減り始めているのです。そんな状態のときに、非ステロイド抗炎症系解熱剤（NSAIDs）アスピリン、インドメタシンなどで体温を下げてしまうと、逆にウイルスが増殖しやすい環境を作ってしまうことになるのです。本当は、インフルエンザにかかったときは安静が一番の療養なのです。

どうしてもお仕事の関係で熱を下げたいときは、アセトアミノフェンという薬剤のみが、熱を下げてウイルスを増やさないというデータが出ています。安全性の高い薬剤ですので、覚えておかれたら良いと思います。



緩和ケア病棟便り

あけましておめでとうございます。

昨年は、及川病院の現状になじむことに終始した1年でした。いろいろな改善点を見出すこともできました。

今年は質の良い緩和ケアを提供できるよう、チームとして再出発する年にしたいと思っています。その為にも患者さんや家族とばかりでなくスタッフ間のコミュニケーションのあり方が変化したら良いなあと希望します。

ディスカッションのないところに進歩はありません。カンファランスと言いながら伝達するだけに集まる時間のロスはやめましょう！時間のエコも大切です！！

ケアギバーとしての私たちがブラッシュアップしていく原動力は、充実したプライベートライフにあります。職業とは関係のない世界に没頭出来ていますか？個人の世界が大切にでき、リフレッシュできてこそ、患者さんに優しく出来ますよね♪

話は変わりますが、当院は4月1日付で緩和ケア研修指定病院となります。これは緩和ケアにおいて指導的な立場にある病院であると認められたということでもあり、その責任を果たしていかなければならないということでもあります。

日常業務に流されるだけでなく、日進月歩の知見に歩調を合わせつつ研鑽を心がけたいものです。今年も仲良くお願いします。

緩和ケア病棟医長

江頭真理子



12月の緩和ケア病棟では季節行事がいろいろありました。

少年少女合唱団によるミニコンサート
手品やハンドベル演奏あいのクリスマス会
クッキー作り、年末の餅つきなど…



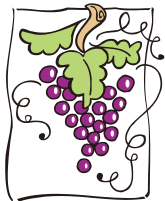
いつもとは違った雰囲気
家族や友人、スタッフと
楽しい時間を過ごして頂けたのでは
ないかと思います。

リーブル便り

栄養科便り

毎年恒例のボジョレの夕べを2009年11月19日（木）に開催しました。

いつもとはちょっと違った大人の雰囲気の中、患者さま同士はもちろんご家族さまやスタッフとの話も弾み、あっという間に時間が過ぎていきました。おしゃべりと笑顔がたえない素敵な集いとなりました。



栄養科スタッフ気合い十分
病棟スタッフと力を合わせて
頑張りました



今日のははボジョレメニュー
いつもよりちょっとおしゃれな夕食です
写真はビーフシチューブルジョワ風

キャンドルを灯せばムード満点
おつまみはチーズとフルーツの盛り合わせ
いつもは小食の患者さまもパクパク食べて
くれました

栄養科おすすめメニュー その⑥

今回は私たち日本人が大好きなお団子です。お団子って作って時間が経ったり、冷蔵庫に入れたりすると硬くなっちゃいますよね。でもこのお団子は時間が経っても、冷蔵庫に入れても柔らかいんです。その秘密はお豆腐！！水の代わりにお豆腐を入れてこねるだけ。病棟の患者さまにも大好評でしたよ。ぜひお試しを。

やわらか団子

●材料

白玉粉・・・200g

絹ごし豆腐・・・250gくらい

作り方

- ①白玉粉と豆腐を混ぜ合わせて、耳たぶくらいの硬さにする。
- ②沸騰したお湯に丸めた団子を入れ、浮き上がってきたら、さらに1分茹でる。
- ③茹で上がった団子は水にくぐらせる。

お好みであんこやきな粉、みたらしをかけて召し上がれ♪

みたらし

しょうゆ・・・30cc

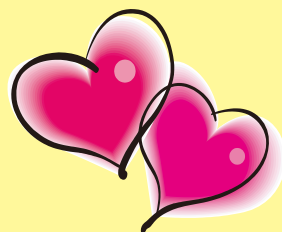
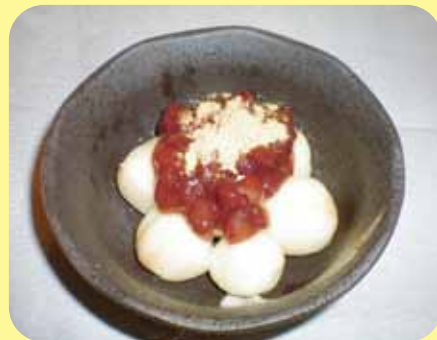
砂糖・・・80g

水・・・100cc

みりん・・・大さじ1

片栗粉・・・大さじ1

調味料を全部合わせて火にかける
片栗粉がダマにならないようによく混ぜましょう



4) サーモグラフィ

サーモグラフィは物体の表面の温度の分布を表現し、乳癌を診断します。乳癌は代謝の程度が高く、高温であり、その直上の皮膚温度が高くなることを利用したものです。空港などで新型インフルエンザの検疫で体温を測る機械がテレビによくありますが、その精密なものです。診断率はマンモグラフィやエコーに比べて低いですが、悪性の予後不良の乳癌を検出できるといわれています。

5) 乳頭異常分泌の細胞診、乳管造影法と乳管鏡検査

乳頭異常分泌（乳管口から授乳時以外に分泌物がでること）、とくに乳頭出血がある場合には、その乳管内に乳頭腫などの良性腫瘍や癌があることがあります。まず、分泌物の細胞診と潜血反応を行います。腫瘍の疑いが強い場合には、乳管造影を行います。これは異常分泌のある乳管口から少量の造影剤を注入して、マンモグラフィを行い、腫瘍の位置、性状を確認します。

乳管鏡（乳管内視鏡）検査は乳管口から小口径のファイバースコープを挿入し、乳管内を観察、腫瘍病変の生検を行います。

6) 穿刺細胞診

腫瘍に直接、細い注射針（21－22G）を刺して、腫瘍の組織を吸引し、採取し、スライドガラスの上に吹き付けて、固定液で固定します。これらを染色、検鏡して悪性であるか否かを診断します。小さな腫瘍や石灰化のみの場合には、超音波のガイドの下に穿刺を行うことにより、より正確に腫瘍組織を採取できる可能性があります。

穿刺細胞診の際に注意すべきは、癌細胞が陽性の場合には確認できますが、陽性の判定が困難であることがあります。また、陰性、擬陽性の時には、腫瘍細胞が十分に採取できない、腫瘍の性格（癌細胞が少ない、異型の弱い細胞の存在）などの理由で、癌の存在を完全に否定できない（偽陰性）ことが起こります。